

# DAIFUKU

Material Handling and Beyond



アメリカで行われた展示会にウェブ社と初の共同出展

株式会社ダイフク

# BUSINESS REPORT

第93期 報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

証券コード 6383

# 物流へのニーズは不変、飛躍の力を磨く

米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機の影響で、各企業とも設備投資を抑制しており、当社グループにも大きな影響を与えております。景気の先行きは、なお底を打ったとはいえ、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が続くと思われまます。しかし、当社の手がけるマテリアルハンドリングシステムの需要がなくなることはありません。人がいる限り、モノがある限り、必ずマテハンというビジネスは生まれてきます。

## 世界同時不況が下半期に影響

**Q 1** 平成21年3月期の業績はどうでしたか？

平成21年3月期の売上は、主力の物流システム部門が、期初からの受注残に支えられたこともあり、堅調に推移しました。しかし、期中に受注し期中に売上を計上する案件、例えば中小型の自動倉庫などの案件、機器商品は下半期以降、景況悪化の影響を受けました。また、昨年11月以降、自動車、エレクトロニクス業界を中心に設備投資の延期や見直しが相次ぎ、受注は各事業とも計画を下回りました。

この結果、受注高は2,120億17百万円（前期比13.0%減）、売上高は2,421億82百万円（同4.6%増）を計上しました。利益面では、景況悪化の影響を受けて電子機器事業で営業損失を計上したほか、受注採算の悪化、受注減少による工場操業度の低下などのため、営業利益は150億15百万円（同27.4%減）、手元資金を厚くするため有利子負債を増やしたことによる支払利息増などにより、経常利益は148億82



代表取締役会長

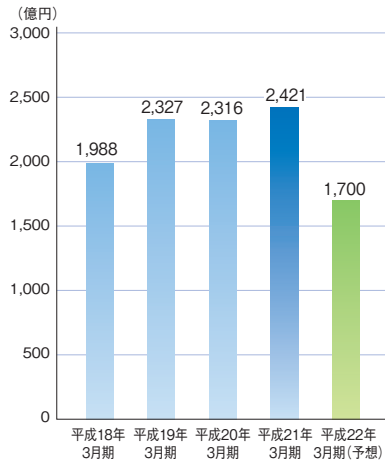
竹内 克己

代表取締役社長

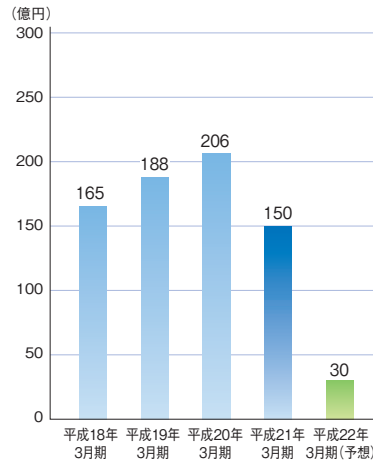
北條 正樹

## 財務ハイライト

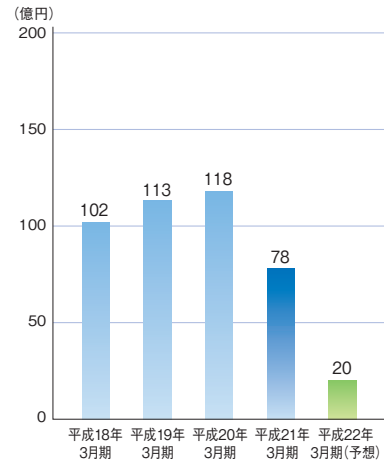
### 売上高



### 営業利益



### 当期純利益



百万円（同27.9%減）、当期純利益は78億51百万円（同34.0%減）を計上するにとどまりました。

また、厳しい事業環境を踏まえて、平成22年3月期の予想は、受注高は1,600億円（同24.5%減）、売上高は1,700

億円（同29.8%減）、営業利益は30億円（同80.0%減）、経常利益は24億円（同83.9%減）、当期純利益は20億円（同74.5%減）としています。（詳細は3ページ〜）

## 「運ぶ」編

### マテリアルハンドリングとは

モノを運ぶ・仕分ける・保管するシステム、機器のことをマテリアルハンドリング、略してマテハンといいます。

「運ぶ」の典型的な例は、生産ラインの工程間搬送。人手では扱えない重いものを動かしながら、付加価値を加えていきます。自動車工場では、プレス加工→溶接→塗装→組立という工程の順にボディを運び、最後に完成車として出荷します。



塗装工程から組立工程への搬送

## 新興国や成長分野の新市場を開拓

**Q 2** 平成22年3月期の見通しと市場動向を教えてください。

昨今の急激な事業環境の悪化により厳しい展開となると見込んでいます。受注残高が前期に比べて約24%減少したことに加え、新規に受注する案件の減少も避けられない見通しです。

主力の物流システム事業のうち、製造業や流通業界向けの保管・搬送・仕分け・ピッキングシステム事業は、流通・医薬卸・食品卸向けなど、景気に左右されにくい業界の大型案件の落ち込みが比較的緩やかですが、中小型案件や機器は、景況悪化の影響が長引くことが懸念されます。一方、農業向けや太陽電池など成長を続けている分野で新しいマテハンの需要が伸びており、当社もシェア獲得に努めています。

自動車生産ラインの搬送システム事業は、先進国ではほと

んどの新規投資が延期されています。しかし、中長期的には、中国など新興国を中心とした需要の伸びや、環境対応車への投資などが期待されます。

エレクトロニクス業界向けクリーンルーム内保管・搬送事業では、半導体・液晶ともに厳しい事業環境が続いていますが、450mmウエハや11世代、12世代の液晶ガラスなどの次世代技術に対応するシステムを開発し、市況の回復に備えます。

北米のウェブ社は、空港手荷物搬送事業が順調に伸びています。同社の無人搬送車とダイフクの自動倉庫を組み合わせたシステムを北米の展示会でアピール。このシステムは、既に受注を獲得しており、さらにシナジー効果が期待できます。

## サービス事業で足腰支え、研究開発と人材育成に注力

**Q 3** 平成22年3月期の方針を教えてください。

現在は、世界的な金融危機の影響が顕在化しているものの、当社のお客さまである自動車、半導体・液晶、流通業界な

どの成長性は、中長期的かつグローバルに見ると底堅いものと思います。そこで、平成22年3月期は「次なる新しい飛躍

### ウェブ社の空港手荷物搬送事業

空港には出発便のチェックインカウンターから飛行機へ、逆に飛行機から到着便の引渡しエリアまで手荷物を運ぶコンベヤが必要で、長さが数千メートルにおよぶものもあります。

ウェブ社のグループ入りにより、当社は新たにこの事業を傘下に入れました。グループ入りに

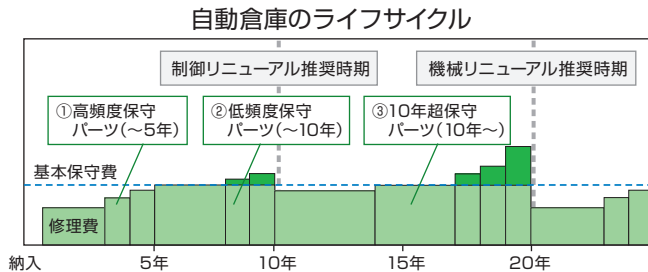
よって、ウェブ社は工事履行保証枠が広がり、大規模案件の受注が可能になりました。また、テロ対策でインラインスクリーニングシステム(写真)導入にともなう、コンベヤシステムの需要が伸びています。



危険物を検知し、検査ラインに運ぶ

のために、事業体質の強化と多様化する市場ニーズへの対応」を基本方針とします。

事業体質の強化として、まず、当社独自の強みであるサービス事業に注力します。サービス事業とは、納入した設備の保守点検やリニューアル、改造工事などのアフターサービスを指します。当社は、世界で2万件以上に及ぶ納入実績をもとに、納入後もお客さまとのおつきあいを続けて、長期的に利益を生み出すビジネスモデルを確立しています。新規設備投資が抑えられても、保守点検などは、設備を稼働させている限りは必要とされるため、現在のような事業環境でも大きく落ち込むことはありません。このサービス事業は従来から力を注いできましたが、海外も含めてのさらなる枠組みの拡大、お客さま対応体制の強化、新たな付加価値の創出などに積極的に取り組んでまいります。



## 次期中計で挑戦を継続

### Q 4 中計の進捗状況はいかがですか？

中期3ヵ年経営計画「Jump up for 2010」で、平成22年3月期に連結売上高2,500億円以上、営業利益率10%以上、海外売上高比率50%以上の達成を経営目標として、持続的成長路線を描いてまいりました。現在、最終年度が進行中ですが、昨今の急激な事業環境の悪化により、残念ながら

一方で、全社横断的に経費の節減、原価の低減、在庫管理の徹底などで損益分岐点の引き下げを行っていきます。今年3月に韓国の現地法人3社を統合、国内でも4月に洗車機とボウリングの販売子会社を統合するなど、事業基盤の再構築により、経営の効率化を図ります。

また、お客さまのニーズは、少子高齢化などを背景にした高度な自動化設備から、新興国に低価格商品を供給するための低コスト設備まで、非常に多様になっています。そういったニーズを丁寧にキャッチして、商品化に結び付けていきます。

当社グループの成長の原動力になったのが、長年にわたって築き上げてきた独自の先端技術と人材の厚みです。現在の厳しい経済環境においても、ニーズに合わせた研究開発とグローバルに活躍できる人材育成に注力し、新しい飛躍に備えるステップとし、「真のリアルハンドリング世界ナンバーワン」実現を目指していきます。



世界技能コンクールで、モノづくりの人材育成

海外売上高比率は達成の見込みであるものの、連結売上高と営業利益率は、次期中期3ヵ年経営計画において挑戦を継続していくこととなりました。

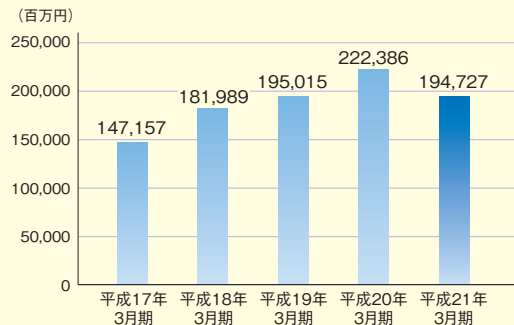
次期中期3ヵ年経営計画の詳細は第2四半期以降に発表させていただく予定です。



総資産

1,947億27百万円

現金・預金と棚卸資産が減少しました。



連結貸借対照表

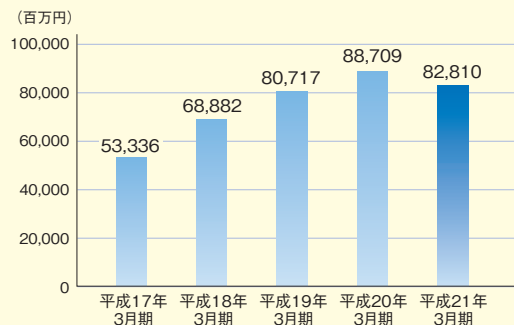
(単位：百万円)

	当期末 (平成21年3月31日)	前期末 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	142,175	165,253
固定資産	52,551	57,133
有形固定資産	34,391	39,130
無形固定資産	4,084	3,703
投資その他の資産	14,075	14,299
<b>資産合計</b>	<b>194,727</b>	<b>222,386</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	67,088	100,413
固定負債	44,827	33,264
<b>負債合計</b>	<b>111,916</b>	<b>133,677</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	85,727	83,355
資本金	8,024	8,024
資本剰余金	9,029	9,030
利益剰余金	71,078	66,587
自己株式	△ 2,404	△ 286
評価・換算差額等	△ 6,178	1,162
その他有価証券評価差額金	△ 387	127
繰延ヘッジ損益	△ 32	18
為替換算調整勘定	△ 5,758	1,016
少数株主持分	3,261	4,191
<b>純資産合計</b>	<b>82,810</b>	<b>88,709</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>194,727</b>	<b>222,386</b>

純資産

828億10百万円

自己株式の取得、円高による為替換算調整勘定により減少しました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	前期 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)
売上高	242,182	231,619
売上原価	195,430	182,260
売上総利益	46,752	49,358
販売費及び一般管理費	31,736	28,680
<b>営業利益</b>	<b>15,015</b>	<b>20,677</b>
営業外収益	980	1,084
営業外費用	1,112	1,133
経常利益	14,882	20,628
特別利益	109	292
特別損失	1,035	328
税金等調整前当期純利益	13,956	20,592
法人税、住民税及び事業税	4,324	6,785
法人税等調整額	2,000	1,335
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 219	578
<b>当期純利益</b>	<b>7,851</b>	<b>11,893</b>

営業利益

150億15百万円

受注の減少により工場操業度が低下しました。



連結キャッシュ・フロー計算書

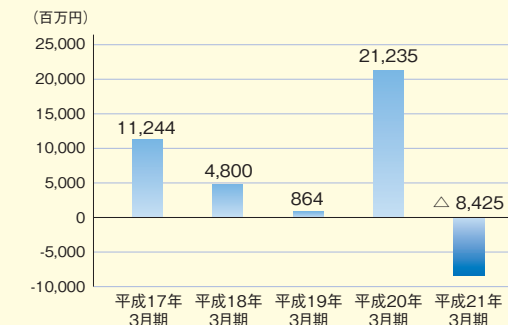
(単位：百万円)

	当期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	前期 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 8,425</b>	<b>21,235</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,900	△ 6,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,189	△ 3,531
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,194	△ 384
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,331	10,978
現金及び現金同等物の期首残高	31,215	19,969
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	18	266
現金及び現金同等物の期末残高	27,902	31,215

営業活動によるキャッシュ・フロー

△84億25百万円

金融環境の悪化もあり、納入先からの前受金が減少しました。



# 株主様向け 日に新たな館 見学会を初開催

## 約100名が参加、物流システムをより身近に

「日に新たな館」は、滋賀事業所内にある総合展示場で400点に及ぶ物流機器、システムを展示しています。

平成21年3月2日、株主様向け「日に新たな館」見学会を初開催しました。関東や九州地方など新幹線を利用して来られた方も含め約100名の方々にご参加いただきました。

竹内会長が事業概要や近況を説明。その後、昼食をはさんで展示場を見学。自動倉庫や自動車工場向け搬送ライン、半導体工場向け搬送システムなど最新製品・技術をご覧いただきました。日ごろ目にする機会の少ない物流システムを、見学会を通して、より身近に感じていただきました。

館内見学後は、11棟の工場があり、総面積120万㎡に及ぶ滋賀事業所内をバスで1周し、各工場の特長や環境対策などを紹介しました。

見学会後に実施したアンケートでは、ほとんどの方から“よかった”とのご回答をいただきました。また、以下のよう  
なご感想を多数いただきました。

見学会の感想はいかがでしたか？

どちらともいえない  
2%

一例

- 「会社の幅広い活躍、シェアの広さを認識した」
- 「実際に製品を見て貴社の技術が素晴らしいことが分かった」
- 「今までどんな会社かあまり知らなかったが、見学会に参加してよく分かった」

よかった  
98%

今後もこの見学会を継続し、株主の皆様とコミュニケーションを図っていきます。



最新の自動倉庫を見学

## 第2回「日に新たな館」見学会のご案内

対象者：平成21年3月31日現在、当社株式500株以上を  
ご所有の個人株主様（同伴者は1名まで可、お子様の同伴は  
中学生以上とさせていただきます）

日時：平成21年10月23日（金） 10:00～16:00

集合・解散場所：JRびわこ線近江八幡駅、米原駅または直接「日に  
新たな館」にご来館

募集人数：120名様 ※同伴者含む

（ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選結果につつま  
しては、当落にかかわらず、書面でご連絡させていただきます）

応募方法：同封のがきをご返送ください

締切日：平成21年7月31日（金）

参加費：無料（集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせて  
いただきます）

昼食：日に新たな館にてご用意しております

お問い合わせ先

株式会社ダイフク IR室 TEL：06-6476-2552

【日に新たな館ホームページ】<http://www.daifuku.co.jp/hiniaratakan/ja/>



## 会社概要

(平成21年3月31日現在)

商号	株式会社ダイフク
創立	昭和12年5月20日
資本金	8,024,016,918円
代表者	代表取締役社長 北條 正樹
従業員数	5,660名(グループ総数)
主な事業所	本社 〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL:(06)6472-1261(代)
	東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-14-5 TEL:(03)3456-2231(代)
事業所	
	滋賀 〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225 TEL:(0748)53-0321(代)
	小牧 〒485-8653 愛知県小牧市小牧原4-103 TEL:(0568)74-1500(代)
支店	北海道、東北、新潟、北関東、東京、 藤沢、静岡、名古屋、東海、北陸、大阪、 中国、九州
海外	世界19の国と地域に展開。中国・台湾・韓国・タイ・米国・カナダにそれぞれ工場を有し、世界最適地生産体制を構築

## 役員一覧

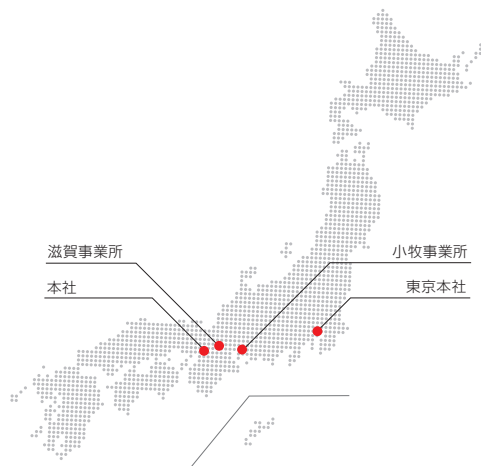
(平成21年6月30日現在)

代表取締役社長	北條 正樹
代表取締役副社長	内條 克正
代表取締役副社長	小田 史樹
代表取締役副社長	天草 史晴
常務取締役	柿沼 清毅
常務取締役	河野 弘
常務取締役	谷口 孝宏
常務取締役	井上 正義
常務取締役	早坂 正慎
常務取締役	田中 好成
常務取締役	藤田 成良
取締役	猪俣 夫
取締役	森屋 進
取締役	平本 孝
取締役	田本 元
取締役	武藤 敏
監査役(常勤)	藤出 節夫
監査役(常勤)	島田 博
監査役	内田 晴行
監査役	林原 康雄
監査役	北本 功

(注)監査役 内田 晴康、林原 行雄、北本 功は、社外監査役であります。



滋賀事業所

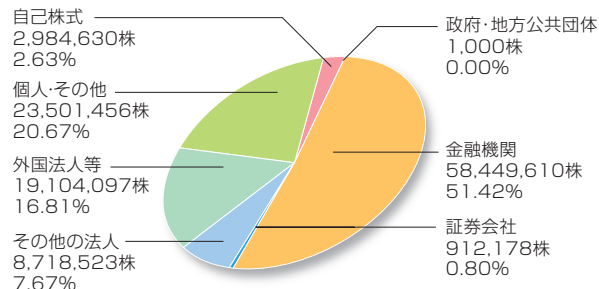


## 株式情報

(平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式総数	113,671,494株
期末現在株主数	11,562名

### 所有者別分布状況



## 株主メモ

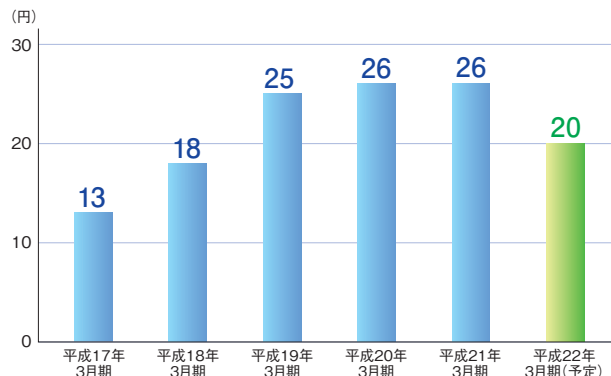
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載します。  
公告掲載の当社ホームページアドレス  
<http://www.daifuku.co.jp/ir/>

上場証券取引所 大阪第1部、東京第1部  
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

## 配当の基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要課題と位置づけ、平成17年3月期から連結当期純利益をベースとする業績連動による配当政策を取り入れています。平成21年3月期は、期初公約どおり年間26円（中間10円、期末16円）とさせていただきます。平成22年3月期は、年間20円（中間10円、期末10円）を予定しております。



(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ (0120) 176-417

(インターネットホームページURL)  
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

**DAIFUKU**  
Material Handling and Beyond

株式会社ダイフク

本社：〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL: (06) 6472-1261 (代)

東京本社：〒105-0014 東京都港区芝2-14-5

TEL: (03) 3456-2231 (代)

<http://www.daifuku.co.jp>